

②低水温・低塩分ワムシ の給餌実験

止水環境で魚にも人にも優しい飼育を

- ワカサギは**止水環境**で飼育することで、生残率が高まり、かつワムシの給餌量も減らすことが可能になりました。

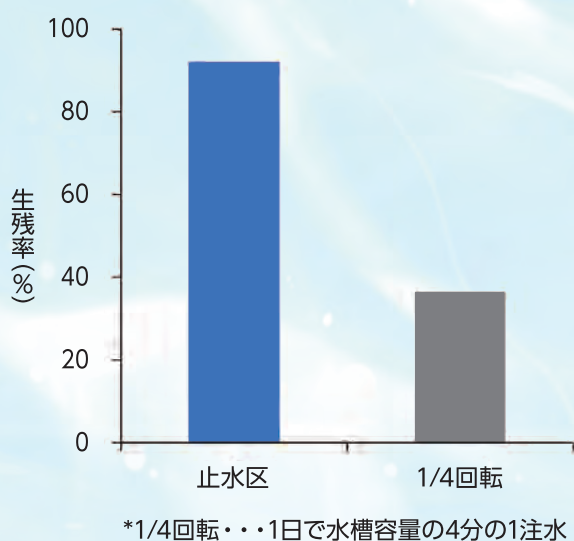


図8 ワカサギ仔魚の生残と飼育水の循環との関係

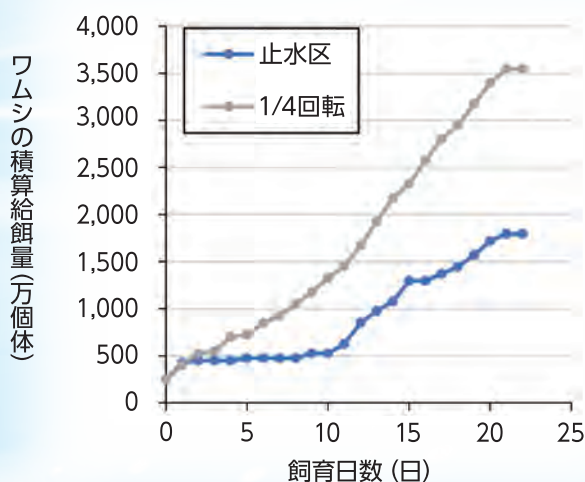


図9 ワムシの給餌量とワカサギ飼育水の循環との関係

- 21日間の飼育実験の結果、止水区でワカサギの生残率が高まりました(図8)。
- これは止水環境で**ワムシの活性や密度が高まり**、ワカサギが多く**のワムシを食べることができた**ためと考えられます。
- 止水環境では、**ワムシが高密度に存在した**ため、給餌量を大幅に抑えることができました(図9)。
- 止水飼育により**人工海水、クロレラなどのワムシ培養コストの削減**および仔魚への給餌の手間の省力化が期待されます。

低水温・低塩分ワムシを実際の現場で使ってみた!



写真10 河口湖漁協でのワムシ培養状況

- ワカサギの種苗生産現場における低水温・低塩分ワムシの有用性を検証するため、河口湖漁業協同組合で実証実験を実施しました。
- 漁協では従来27℃でワムシを培養していましたが実験では20℃で培養しました(写真10)。

- 約2か月間の飼育を行い、前半は低水温・低塩分ワムシと通常ワムシを交互に、後半4週間は低水温・低塩分ワムシのみを給餌しました。収穫はバッチ式で行いましたが、2か月間安定してワムシを収穫できました。またワムシ培養にかかる電気代も節約することができました。

- 河口湖漁協のワカサギ飼育担当者から「飼育したワカサギは過去最高の成長と歩留まりだった」(写真11)、「ワムシの増殖率が安定していて、クロレラの量を調整することなく培養できたので管理が非常に楽だった」とのコメントをいただきました。

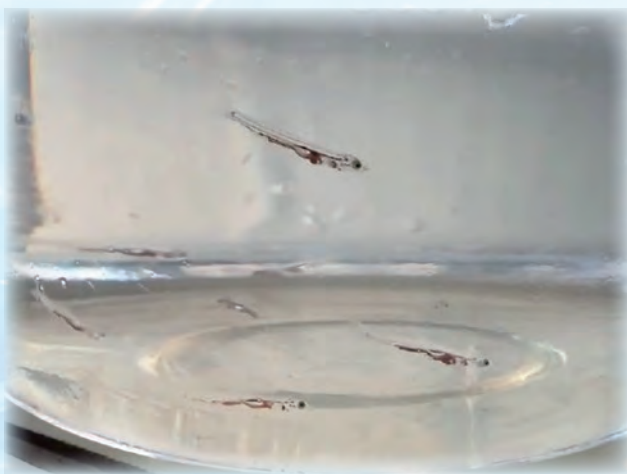


写真11 放流直前のワカサギ稚魚、従来はシラス状態での放流でしたが、稚魚サイズでの放流が可能となりました。